

伐倒後、伐倒木に近づいた際、 頭上より枝が落下してヘルメット に激突し首をねんざした

災害概要

- ▶原因：枝の落下 ▶発生月：6月 ▶FW研修：2年目 ▶年齢：27歳
▶受傷部位：首 ▶傷病名：ねんざ ▶作業内容：間伐、伐木

発生状況

傾斜30度弱、チェーンソーによるスギの間伐(樹高15m、胸高直径20cm)を実施。
スギを伐倒終了後、移動していた退避場所から枝払いのため伐倒木に近づいた際、
頭上より別の立木にかかっていたと思われる枝(太さ7cm、長さ3m)が落下してヘル
メットに激突した。



原因

隣接した立木の枝に引っかかっていた枝の落下。
 風がある日であり、指導員から上部確認をするよう指導を受けていた。枝払いのため行動を開始したが、上部の枝のかかりに気が付かなかった。

再発防止対策

- 伐倒後に退避場所から移動する際は、あわてずに上下周囲を確認する。
 (保安帽を装着していたため軽微のケガであったが、重大災害につながりかねない事故)
- 気象状況による危険は、作業開始前に注意喚起する。



木を伐倒する前に、樹冠を見上げて引っかかった枝や木の先端、枯れ枝がないか調べましょう

樹冠にある危険

伐倒作業に影響を与える最も危険な気象要因は風です。微風でも風向きが望ましくなければ伐倒方向がずれたり、追い口を作っている際に追い口が閉じてガイドバーが挟まる可能性があります



気象状況の確認



伐倒木が地面に倒れる途中で接触しそうな木(かかり木になりそうな周辺木)にも注意が必要です。倒れながら隣接木に引っかかった枝が外れ、作業者の方へ落下する可能性があります。枯損木も確認して、必要ならば伐倒作業を続ける前に処理しておきましょう

隣接木の確認



枝がらみの木の危険区域を表示

枝落下キケン 立入禁止

枝落下の危険があり処理できない立木は、標識等を立てて立ち入り禁止にします

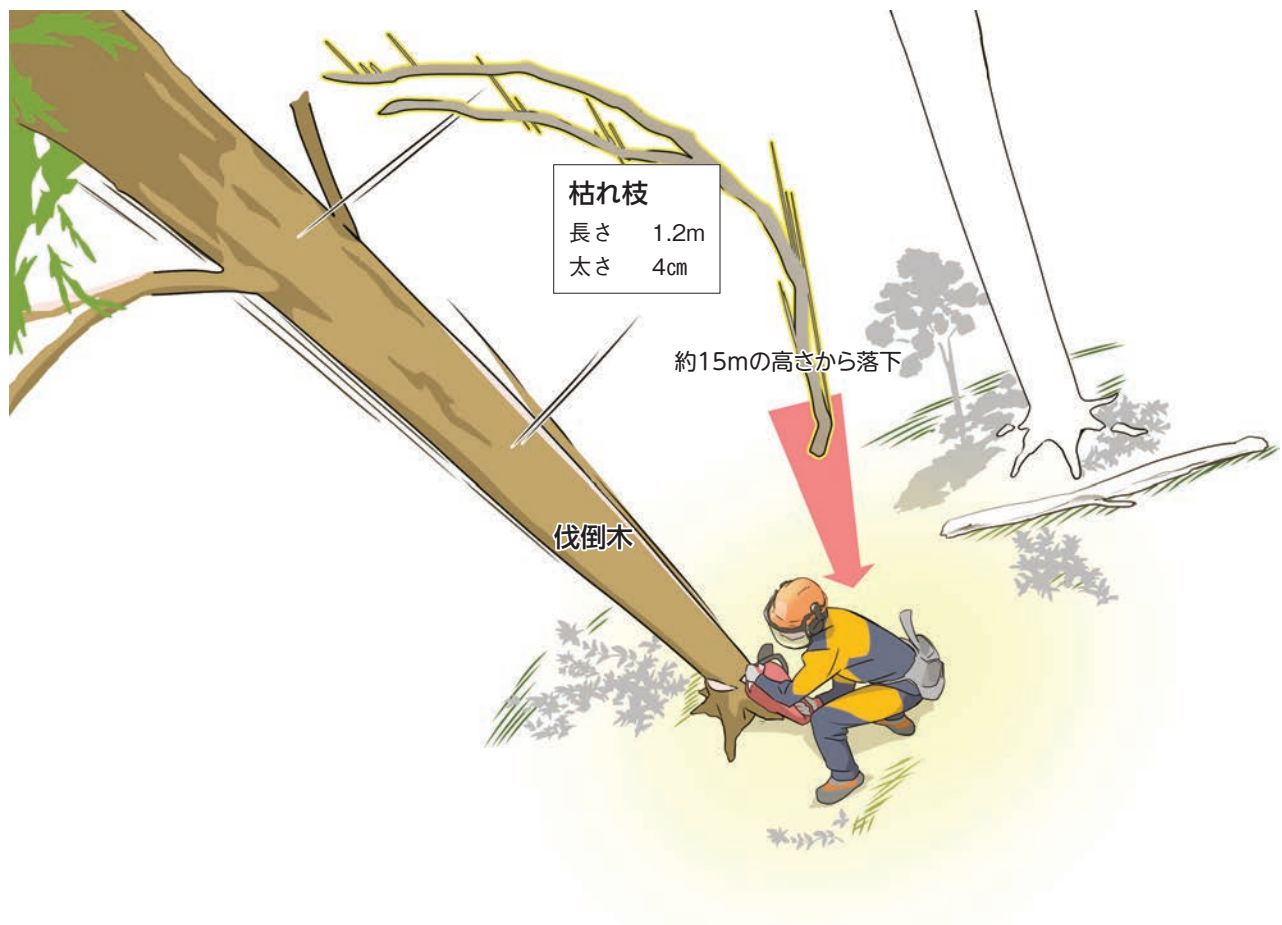
スギを伐倒した際、上方にあった枯れ枝が落下し、背中に当たり打撲した

災害概要

- ▶原因：枝の落下 ▶発生月：2月 ▶FW研修：3年目 ▶年齢：20歳
▶受傷部位：背骨 ▶傷病名：打撲 ▶作業内容：間伐、伐木

発生状況

傾斜20度。スギ搬出間伐作業。50年生程度。落下した枝は直径4cm、長さ1.2m。研修生は伐倒木の枝に引っかかっていた枯れ枝に気づかず作業を行い、伐倒木が倒れる際に上方（高さ約15m）にあった枯れ枝が時間差で落ちてきて背中に当たった。



原因

枯れ枝の落下。

再発防止対策

- 伐倒作業に入る前の上下周囲確認の徹底。



樹冠にある危険

枝落下の危険があり処理できない立木は、標識等を立てて立ち入り禁止にします



枝がらみの木の危険区域を表示



伐倒中も上方に注意を払う

● 先輩の経験談、アドバイス ●

伐倒時の落下・飛来物では、みんな痛い目にあっています。同僚は鎖骨を骨折しました。正直、完璧に防ぐことは難しいというのが本音です。

ただ、追い口を入れながら上方確認をするようにしています。伐倒方向・手元・上方の3方向を絶えず確認します（まともに見上げると顔面直撃にあうので、チラ見程度ですが）。隣接木との接触、つるがらみ対応にも有効です。

経験者ほど上を確認する機会が多くなります。新人さんも上を見るようにしましょう。

カッパや防寒衣をリュックに入れて作業することもあります。リュックが背中を守るクッションになったこともあります。もちろん作業の支障となることもあるので無用のものを背負う必要はありません。